

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472900246
法人名	医療法人 豊和会
事業所名	グループホーム第2やまもも
所在地 (電話番号)	志摩市阿児町鶴方2555番地9 (電話) 0599-44-1220
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 6 月 6 日(金)

【情報提供票より】 (H20年5月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	56,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円~	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

(4)利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1		1 名	要介護2		4 名	
要介護3		2 名	要介護4		2 名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	84 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	豊和病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

全体的にゆったりしており、職員の表情も明るく、それでいて着実な取り組みがされている事業所である。大規模な法人が運営しているが、グループホームとしての独自性で運営されていると認められる。一面では病院併設の法人のため、家族の安心感にもなっていると思われる。また運営推進会議を定期的開催され、志摩市主催の「阿児地区地域包括ケア会議」にも参加し、地域の老友会に加わり地域行事に参加する等、周辺の行政や関係者との連携、交流が活発にされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回調査時の課題とされた項目の内、家族との関わりを深める工夫、出入口の鍵については、その後も検討はされているが、まだ改善の成果が見られない。今後の対応を期待したい。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価自己評価員育成研修会にも参加し、その結果を他の職員にも伝える努力をして、今後のあり方についても話し合っている。また今回の自己評価の記入に際し、各職員の意見を聞いている。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は定期的開催され、すでに12回を重ねている。会議では、事業所としての取組みを報告し、参加者の意見を聞くとともに市担当者からは行政課題等を積極的に提案してもらっている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族への報告、意見の反映等、家族との関わりにおいて努力をされているが、まだ限られた家族との関わりになっている。今後、より多くの家族と関わりが持てるよう、取り組み方の工夫を期待したい。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩や買い物で外出をして、地域の人たちと顔をあわせている。散歩は子どもたちの帰宅時間に合わせ、安全パトロールをかねている。地域の自治会、老友会に加わっている。また、事業所が災害時の避難場所になることをピーアールしている。

2. 評価報告書

(■■■ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームが地域密着サービスとなってから、以前のものを若干変えて今のものとした。法人の理念、事業所の理念と2種類ある。	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事業所の玄関や事務室の窓に貼っており、いつも見られるようになっている。また職員会議の都度、その意味を話し合っている。	
2. 地域との支えあい				
		○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	適宜散歩等で外出しており、地域の人たちと顔をあわせる機会がある。中でも、散歩は子どもたちの帰宅時に合わせて出かけ、安全パトロールをかねている。また、地域の自治会や老友会にも加わり、その行事に参加している。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
		○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価自己評価員育成研修会にも参加し、その結果を他の職員にも伝える努力をして、今後のあり方についても話し合っている。	
		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はこれまで定期的に行われ、すでに12回を重ねている。事業所としての取り組みを報告することで、さまざまな意見交換ができるようになってきた。	

		○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には志摩市担当者も出席しており、建設的意見を出してくれる。また、市主催の「阿児地区地域包括ケア会議」が3ヶ月に1回ぐらい開催されるので、参加し、地域の顔見知りもでき、さまざまな意見交換ができるようになってきた。		
4. 理念を実践するための体制					
		○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所の行事をすれば、その結果報告や写真等を家族に送るようにしている。何もなくとも、2ヶ月に1回は必ず家族へ通信しているが、これは運営推進会議の報告と連動させている。郵便だけでなく、遠方の家族にはEメールを送信する。家族によってはその返事をきちんとくれる人もある。		
		○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の都度、家族にも案内を出しているが、出席は常連の家族に限られている。	○	家族への報告や意見の反映等、家族との共同に努力はされているが、まだ限られた家族との共同になっている。今後、より多くの家族と関わりが持てるよう、対応に工夫を凝らすことを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の法人内異動はこれまで例がなく、退職者があればその状況を伝えている。もし異動があれば、その都度入居者にも伝えるつもりである。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人や事業所独自の研修計画は策定されていないが、県社協や志摩市内で開催される研修の情報は、職員に伝えるようにしている。その他の研修も含め、職員の希望を聞きながら交代で参加できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や介護サービス事業者連絡会に参加している。他に法人内には施設がたくさんあり、グループホームも3ヶ所あるので職員間では適宜交流の機会がある。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入所ができる仕組みになっているが、今は万床のため事実上できない。入所手続きは、はじめに法人の相談員(社会福祉士)が本人や家族と面接し、関係者と話し合い、決めている。利用対象外の場合は、他の利用できる施設を紹介している。</p>		
----	----	---	--	--	--

2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>共同作業が可能な利用者にはこれまでの経験を考慮しながら、職員と一緒にやっている。利用者、職員が共に支え合える関係作りをしている。</p>		
----	----	---	---	--	--

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者それぞれの意見や考え方を聞きながら、利用者のペースに合わせた援助をするよう努力している。</p>		
----	----	---	--	--	--

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>オリジナルの様式の介護計画にペンで記載をしている。意見を出してくれる家族もあるが、多くはお任せしますとの返事である。家族には計画に対する意見を出してもらうように、その都度連絡をしている。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回ずつ見直しするようにしている。見直し事項の有無、その内容等について職員や医師や看護師等関係者と話し合ったうえで計画している。</p>		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当法人は病院、特養、老健、在宅関係諸サービス等、総合的な運営をしており、医師、看護師が定期的に訪問しており、理学療法士は土日以外の毎日来所してリハビリに取り組んでいる。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療機関を利用するときは職員が付き添うが、それ以外の医療を要する時は家族対応を依頼している。契約時、家族にそれを説明している。	
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人理事長の考え方であるが、事業所ではターミナルケアができないので、終末は入院してもらうことにしている。内部の段差や職員体制等により重介護を要する人への対応は困難を伴ってくる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	できるだけ家族や地域に情報発信をするようにしているが、例えば写真を公開するとき等は一人ひとりに了解を求めるようにしている。	
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に行く人行かない人、レクリエーションに参加する人参加しない人、テレビを見る人見ない人、それぞれのペースで好きに過ごしてもらうようにしている。墓参りを希望する人には、行っていただくように取り組んでいる。	

(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	はじめは食事時の会話を楽しもうとしてきたが、年若い人の習慣から食事中は静かにするものだという考え方があり、今では食事中は静かにしている。食事準備では調理は無理だが、下ごしらえは一緒にしてもらうようにしている。メニューはそれぞれの好みを聞きながら事業所で決めている。	
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を好まない人に対しては、これまでいろいろな方法で洗身するよう試みてきたが、応じてもらえず苦勞している。入浴したい人にはいつでも入っていただけるよう、毎日準備している。	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ADL(日常生活動作)の中で楽しみ気晴らしの支援をし、日常的な作業ができる人には洗濯物たたみ、食器拭き等をしていただいている。	
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常ではできるだけ散歩に出かけている。他に、花見(桜のみでなく、季節の花が見られるところへあちこち出かける)、観劇、墓参り等に出かけるようにしている。	
(4)安心と安全を支える支援				
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	この建物は、1階がデイサービス、2階がグループホームとなっている。これまで鍵をかけない工夫を何度となく議論してきたが、利用者が職員の知らないときに出入されると、事故の危険性が多いとのことから、内側からあかないよう施錠している。	○ 建物の形状から、鍵をかけざるを得ないとの結論は理解もできるが、果たしてそれでいいのか検討を深めてほしい。鍵を使わず利用者の安全と行動の自由が確保できる工夫はないのか、大いに議論することを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害があれば施設自体が避難場所となるので、地域にはその声かけをしている。従来から年2回、避難訓練をしており、地震対応の訓練もした。これには消防署も参加してもらえる。備蓄食料は3日分を持っている。	○ 避難訓練はよくなされている。避難訓練に加えて、緊急時の救命対策の研修も工夫してはどうか、周りにいる医療関係者とも協議して具体化されるよう、期待する。

(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは利用者の意見や好みを聞きながら、介護食有資格者(2級)が中心になって考えている。量、バランスとともにアレルギー、便秘、水分補給にも注意している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ビージーエム(有線放送)が室内をゆったり流れているが、これは隣接の病院と共有である。日常は多くの人々が共用の食堂兼談話室にきて好きなように過ごしており、自室でテレビに向かっている人はいない。しかし、2人だけは性格と症状が関わるのか自室にこもりがちである。職員はその人にも同じような心がけで接している。	
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	何を持ち込んでも良いと話しているが、仏壇、冷蔵庫、携帯電話等を持っている人はいない。多くの人が整理筆筒とテレビを持ち込んでいる。	